読売新聞　朝刊

（第三種郵便物認可）　2006年（平成18年）5月13日（土曜日）

電子顕微鏡でミクロの世界

実験室を有料開放

岡大医学部

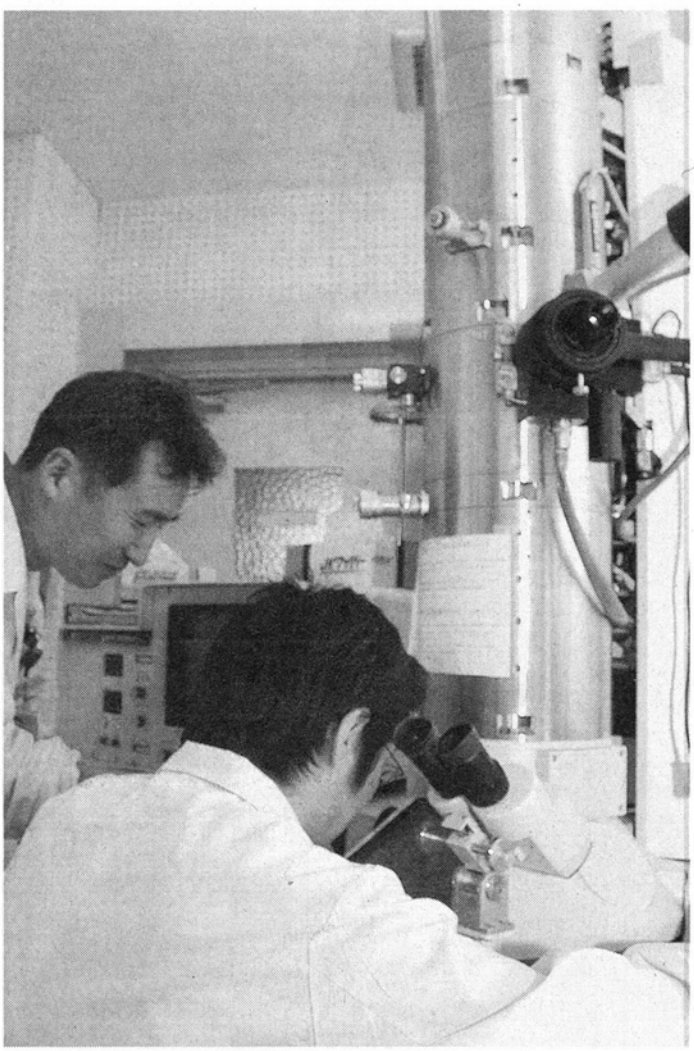
岡山大は地域貢献の一つとして、医学部の共同実験室を一般に有料開放し始めた。中高生が電子顕微鏡で細胞内部や、物質の表面の立体像を観察して理科学習に役立てたり、学外の研究者が高度な機器を実験に使える珍しい試み。「特に子どもたちは、普段できない実験や微細な観察をして、科学への関心を高めてほしい」と、呼びかけている。

同大は1949年から、学内の研究支援のために共同実験室を順次拡充し、現在約100台の高度な機器がある。このうち一般利用できるのは、細胞の切片から構造を見られる「透過型電子顕微鏡」（1時間3000円）、生き物や物質の表面を立体的に観察できる「走査型電子顕微鏡」（同3000～3600円）。

ほかにも、食物などの水分を飛ばして観察試料にする真空凍結乾燥機（1日4500円）、観察結果などをA3版からB0ノビ版（縦1・1㍍、横1・6㍍）まで印刷できる大判カラープリンターなど約40台。細胞切片など観察に使う試料を作成するサービスも9000～12万8000円で行っており、実験観察を総合的に支援する。

利用には事前申し込みが必要で、ホームページは（http://www.hsc.okayama-u.ac.jp/med/med-jikken/）。

問い合わせは同室（086・235・7472）。



一般にも有料開放される岡山大医学部共同実験室の透過型電子顕微鏡